

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	地域の社会教育機関と創業支援機関との橋渡しによるNPOインキュベーション事業
分類	<input type="checkbox"/> 一般枠 <input checked="" type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	国立市NPO育成支援事業協議会 (国立市、CESAくにたち)
実施期間	平成24年5月8日から平成25年3月31日まで
支援額 (注釈参照)	4,570,000円 人件費：3,677,440円 諸謝金：184,000円 旅費：8,640円 消耗品費：78,720円 印刷製本費：177,350円 通信運搬費：18,000円 設備備品購入費：416,400円 委託費：9,450円
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	市民等に向けて、社会教育機関である国立市公民館(公営)ならびに学校法人日本放送協会学園(民営)がNPOやまちづくりに関する講座による学習支援を行い、その過程で受講した市民等のグループ化を図った。それらのグループに対して、引き続き、創業支援機関であるCESAくにたちがワークスペース・ICT・地域ネットワークの提供による活動支援を行い、アクティブシニア団体である国立人倶楽部も補佐することで、新たなNPOを育成した。行政機関の協働推進部局である国立市生活環境部市民協働推進課は、社会教育機関と創業支援機関との橋渡しを仲立ちした。協議体である国立市NPO育成支援事業協議会は、事業全体を統括した。
事業概要	市民等に向けてNPOやまちづくりに関する学習機会を提供する社会教育機関とNPO活動やまちづくり活動のスタートアップを支援する創業支援機関との橋渡しを実現することによって、地域におけるNPOの育成支援(インキュベーション)を学習支援から活動支援まで分担かつ一貫して提供するしくみ(モデル)を構築した。
事業内容	<p>(1) 社会教育機関と創業支援機関との連携構築事業</p> <p>事業内容 学習支援と活動支援とが分担かつ一貫したNPO育成支援モデルを構築するため、地域の社会教育機関と創業支援機関のそれぞれの従来の役割機能を活かしながら、両者の連携を図った。</p> <p>実施事項 ①協議会(社会教育機関、創業支援機関を含む)の各ステークホルダーの役割調整 ②本事業独自の学習講座(モデル講座)の企画 ③社会教育機関の既存の学習講座との連携準備</p> <p>実施方法 ①設立総会において役割分担の概要を確認。詳細な調整は随時、打合せ等で実施。 ②学習テーマの検討、対象者の選択、プログラムの策定、日程調整、講師交渉等。 ③連携する既存の学習講座の選出。講座の修了時期と活動支援の開始時期の調整。</p>

実施の分担

CESAくにたち：協議会スタッフとして総括 ①/②/③活動支援関連の調整
国立市公民館：①/②学習テーマの検討、対象者の選択/③既存の学習講座の選出
NHK学園：①/②学習テーマの検討、対象者の選択/③既存の学習講座の選出
国立人倶楽部：協議会スタッフとして補佐 ①/②/③活動支援関連の調整
国立市生活環境部市民協働推進課：①社会教育機関と創業支援機関との仲立ち

(2) NPO育成のための学習支援事業（実証事業）

事業内容

市民等の地域や社会に対する問題意識・参加意識の醸成、ノウハウの習得、仲間づくりの促進を目的として、市民等に向けてNPO活動やまちづくりに関する学習講座を提供した。

実施事項

- ①本事業独自の学習講座（モデル講座）の運営
- ②社会教育機関の既存の学習講座との連携実施

実施方法

- ①2つのワークショップ型の講座（全4回）を開催。グループワークを組み込む。
- ②地域活動スタートアップ型の既存の学習講座と連携。活動支援スタッフが参画。

実施の分担

CESAくにたち：協議会スタッフとして総括 ①/②参画・グループ形成促進
国立市公民館：①教室・備品の提供/②
NHK学園：①教室・備品の提供/②
国立人倶楽部：協議会スタッフとして補佐 ①/②参画・グループ形成促進
国立市生活環境部市民協働推進課：①広報紙で受講者募集・公共掲示板の使用許諾委託
国立市シルバー人材センター：①受講者募集ポスターの公共掲示板への掲示

(3) NPO育成のための活動支援事業（実証事業）

事業内容

市民等によるNPOの組織化の促進を目的として、学習講座を修了した受講者に向けて、NPOの組織化に要するリソース（ワークスペース、ICT、地域ネットワークなど）を支援提供した。

実施事項

- ①ワークスペースの支援提供
- ②ICTの支援提供
- ③地域ネットワークの支援提供

実施方法

- ①会議室、集会室、調理実習室、ホール、備品（プロジェクター、白板）の貸出。
- ②パソコン、タブレット、ビデオカメラ等の貸出。フェイスブックでの情報支援。

	<p>③人材や機関とのコーディネート、交流会の開催、シンポジウムの参加斡旋。</p> <p>実施の分担 CESAくになち：協議会スタッフとして総括 ①会議室／②／③大学、交流会等 国立市公民館：①集会室・調理実習室・ホール／②ビデオカメラ等／③映像技術者 国立人倶楽部：協議会スタッフとして補佐 ③行政・NPO・自治会・市議会議員 国立市生活環境部市民協働推進課：①市が所有する広場／他、広報支援・地図提供</p>
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>これまで地域において個々に活動していた社会教育機関と創業支援機関との橋渡し（連携体制）が実現し、地域におけるNPOの育成支援（インキュベーション）を学習支援から活動支援まで分担かつ一貫して提供するしくみが得られた。</p> <p>また、実証事業では、そのしくみを用いて、市民等がノウハウ、仲間づくり、ワークスペース、地域ネットワーク、ICTなどのNPOの組織化に必要なリソースの支援を得て、地域活動に取り組むNPOを新たに組織した。これにより、従来の課題であった学習と活動との隔たりが解消され、効果的にNPOを育てる場づくりができたことを確認できた。</p> <p>行政等との協働の効用としては、機関間の連携の仲立ちを行政が担ったほか、市民等に対する広報・募集や地域活動に取り組むNPOの活動場所の提供などで大きな力となった。</p> <p>今後の展望としては、市民等のうち地域活動への参加が少ない若者に対象を絞り、本事業で得られたしくみを応用して、地域の社会教育機関と大学等とが連携し、若者の社会教育機関の利用を促し、学習支援プログラムを介してグループ化を図り、グループの活動支援に取り組むことで、若者を主体とするNPOを育成する事業に取り組む。</p>
<p>評価ランク</p>	<p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

事業の実施内容及び実績に関する報告書

自己評価シート